

算数解説(初級編)

線分図

線分図とは

線分図とは、値を線の長さで表すものです。値が大きいほど長い線になるので、値の大小が、目で見えてすぐに分かります。

ここでは、線分図の典型的な問題「和差算」を利用して、線分図の書き方を理解しましょう。

和差算

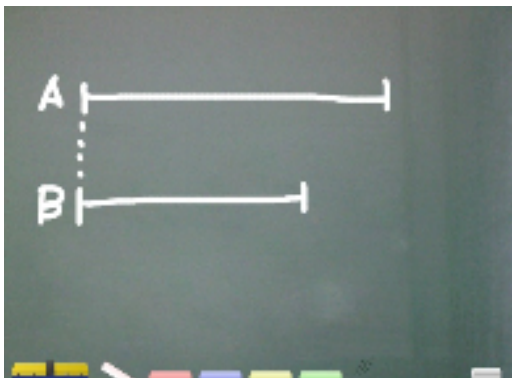
例題 A と B の和は 18 で、A は B より 2 大きいです。A の値を求めましょう。

解説 まず、条件を確認してみましょう。

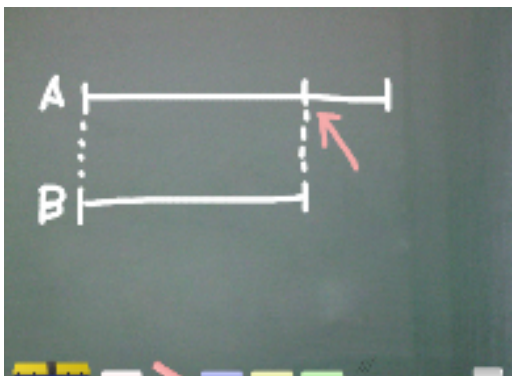
条件①A と B の和は 18

条件②A は B より 2 大きい

条件②より、A を B より長く書きます。また、差が分かっているので、差を書きこみます。

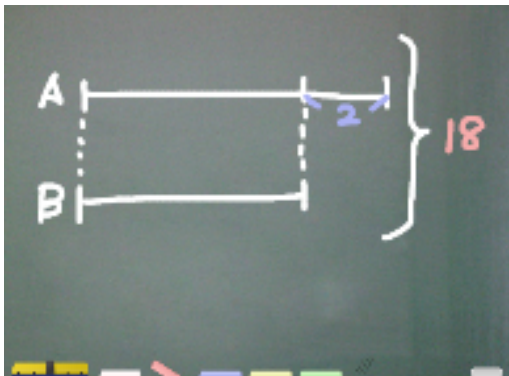


この時、同じ長さのところに印をつけると分かりやすいです。

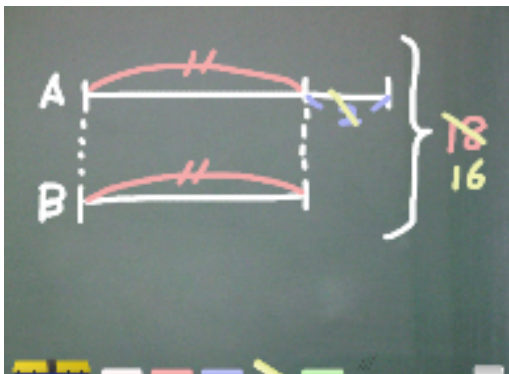


算数解説(初級編)

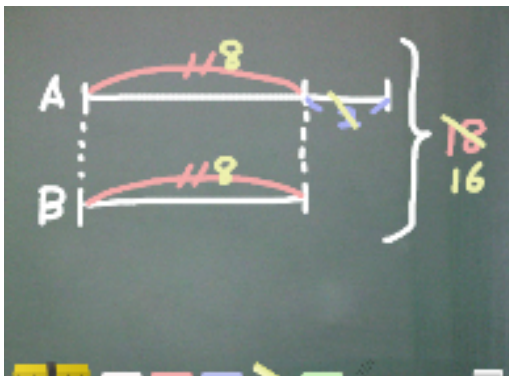
条件①より、和が分かっているので、和を書き込みます。



はんばな部分がありますね。もし、これがなければ和はいくつでしょう。



$18 - 2 = 16$ 。そうです。つまり、B が2つ分で 16 なので、B の大きさは $16 \div 2 = 8$ です。
よって $A = 8 + 2 = 10$ です。



線分図の書き方が理解できたら、自分で練習をしてみましょう。